

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-B-5		更新日		2025/1/31	
サイト名		出雲地方 ^{さんきょ} 散居集落の唯一無二の佳景 ^{ついでまつ} ～築地松					
基本情報	区分	☒ 有形 ☐ 無形 ☐ その他					
	所在地	出雲市斐川町、灘分町ほか					
	指定別	「原鹿の築地松」 出雲市指定（指定番号 第9号）					
	種別	有形民俗文化財					
	指定／登録年月日	1973（昭和48）年10月23日					
	管理団体／モニタリング	個人（私有地であり、所有者によって管理されている） ／築地松景観保全対策推進協議会 【問合せ先】 出雲市建築住宅課 TEL:0853-21-6176 築地松景観保全対策推進協議会ホームページ 					
	周辺施設／アクセス	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☐ 駐車場（ 台） ／出雲縁結び空港から車で約10分、JR庄原駅から車で約7分					
	留意点	築地松は、個人の所有物です。 無断で私有地に入るのは、ご遠慮ください。					
サイトの解説	歴史・文化	出雲平野を上空から見ると、屋敷林に囲まれた民家が点在していることがよく分かる。沖積平野に点在する民家群は散居集落と呼ばれ、屋敷林に囲まれた大規模な散居集落は富山県の砺波（となみ）平野など全国で数か所に見られるが、出雲平野の散居集落の屋敷林は他と大きく異なっている。それは屋敷林の樹種がクロマツであることに加え、10mを超えるマツがきれいに刈り込まれていることである。築地松と呼ばれるこの屋敷林は家屋の北・西側にあり、冬季に吹き付ける強い北西の季節風をさへぎるためといわれている。 この築地松、歴史的には約300年前からと考えられており、最初からマツが植えられていたわけではない。出雲平野一帯には稲作に適した肥沃な湿地が広がっており、耕地を求めて進出した農民は、時々起こる川の氾濫から小屋を守るために周囲に土塁（築地）を設置した。そして初期には土塁を保護するためにタケ類を植え、徐々に土地が乾燥してくるとタブノキなどの常緑広葉樹を植えるようになった。 堤防が強化され洪水が少なくなりさらに乾燥が進むと、北西の季節風を防ぐために乾燥地を好むクロマツが植えられるようになった。そして、肥沃な土地で収穫量が多いことから生活に余裕ができ、競ってマツを刈りこむようになり、現在のような美しい築地松景観が形成されたのである。 このような高木のマツを刈り込んだ散居集落の屋敷林は、日本はもとより世界でも例がなく、世界で唯一の優れた景観となっている。この美しい景観を守っていくため、築地松景観保全対策推進協議会がつくられ様々な保全対策が講じられており、刈込を行う陰手刈（のうてごり）職人を養成する研修会なども開催されている。					
	地形・地質、生物・生態等	出雲平野に点在する散居集落の民家の北・西側に植栽したクロマツを、きれいに刈り込んだ築地松は、世界でも出雲平野にしか見られない特異な屋敷林である。散村の屋敷林としては、富山県の砺波平野に点在する防風林垣内（かいに）が有名であるが、築地松のような美しい刈り込みは見られない。クロマツを使った屋敷林は出雲平野にしかない独特のもで、美しく刈り込まれた築地松は類を見ない貴重なものである。 築地松の「築地」とは土塁のことで、湿地状態であった出雲平野を穀倉地帯に変えてきた農民の営みのなかでうまれた。出雲平野の歴史や風土と密接な関連を持つもので、ジオの観点からも注目される。					
写真・図等		 築地松 出雲平野の散居集落風景 陰手刈の風景					
参考文献		佐藤仁志（1991）しまねPR読本「コンパス」、134-135、島根県広報協会。 有田宗一（1990）ふるさと斐川探訪シリーズ②築地松と民家、斐川町教育委員会、					